

低気圧に伴う降雨における 寒河江ダムの防災操作（洪水調節）効果について

～ ダムによる水位低減効果 約59センチ ～

最上川ダム統合管理事務所管内では、低気圧に伴う降雨により平成28年7月6日から7日にかけて、寒河江ダムにおいて洪水調節を実施しました。

寒河江ダムへの最大流入量は約452m³/sで、洪水調節でダムにため込んだ水の総量（以下、「調節総量」とよびます。）は、約305万m³に達しました。（東京ドームを容器とすると約2.5杯分）

この洪水調節により、寒河江ダムの下流河川の水位を約59cm低減させる効果があったものと推測されます。

今後しばらくの間、ダムからの放流がつづきますので、河川やダムの情報に注意してください。

※防災操作（洪水調節）：川の増水を少なくするため、ダムに流れ込む水を貯めて川の水の量を減量している状態です。

【発表記者会：山形県政記者クラブ】

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 最上川ダム統合管理事務所
山形県西村山郡西川町大字砂子関158

副所長（技術） 大沼 敏治 （内線204）

調査課長 村岡 章 （内線351）

電話 0237-75-2311（代表）